

2010年1月2日^土・3日^日・4日^月
日本大学医学部入試
実戦模試

模試

採点

解説

重要問題詳解

2009年度 日本大学医学部
本科生進学者3名!

日本大学医学部入試を徹底研究した出題!

Windom

医学部予備校ウインドム

日本大学医学部を受験すること

日本大学医学部の特徴といえば、

1. 問題がいい、すなわち良問揃い。

化学も無機・理論・有機とバランスよく出題してくれる。生物に考察・実験問題が出ているが、よく考えれば（しっかり学習していれば）できる問題。英語の出題形式は医大の中でも特徴的だが、意外と長文は読みやすく、設問は解きやすい。

2. 傾向が読めない。

これは大学側が意図的に変えている。また、日本大学は日本有数の総合大学であり、問題のストックは豊富。よって、傾向を変えることも難なくできる。

3. 記述主体で、試験が終了した時点で合否がわかる。

75%の得点率を確保したければ8割の手ごたえが必要。記述の場合、自己採点は甘くなりがちなので、あえて80%の得点が必要だと明記しておく。

★ただし、2010年より理科はマーク方式導入。

4. とにかく千秋楽。

関東の旧設医大を狙うということでは…。

5. 毎年、受験生はうなぎのぼり。

ここ数年、3000人強！ しかし、一次合格数はかわらない。

ここで注目したいのは、4.の千秋楽というところ。千秋楽にあるということは、受験経験も積んで、ここで開花する可能性も充分ありえるということ。

人間は経験を積むことで対処方法を学ぶ。もし、1月からの受験で振るわなくても、しっかり自己洞察し、学習を続けていけば、必ずここで実を結ぶことができる。

ウイングダムの本科生でも毎年みられることだが、藤田に落ちて日大に合格、11連敗で日大に正規合格。これを、たまたまだと思いますか？ 記述試験にたまたまはありませぬ。あの倍率で偶然合格はありえない。やはり開花したのだ。だから「受験校で一番できた気になった」とか「いままで受けた受験校で一番やさしいと感じた」と感想を漏らす本科生が多々いる。諦めないでほしい。

日本大学医学部 実戦模試の概要

本講座は、模試と解説授業がセットになった新しいタイプの模試講習。受講生はまず、日本大学医学部の入試形式（問題形式・解答用紙・試験時間）に沿って模試を受講する。そして翌日、採点された答案を手元に置いて、講師の講義を受けながら、どこにつまずいているのか？ 何が足りないかなどの自己分析をする。

ただ実戦模試で出題される問題は限られており、前述したように日本大学のような総合大学では、意図的に傾向を毎年変更し、出題癖を悟られないように工夫しているので、実戦模試とは別に伏線を引いて置く必要がある。よって「必ず演習しておきたい最重要問題」もあわせて詳解し、自信をもって2月8日の日大医学部受験日を迎えられるよう、万全の体制を整えていく。

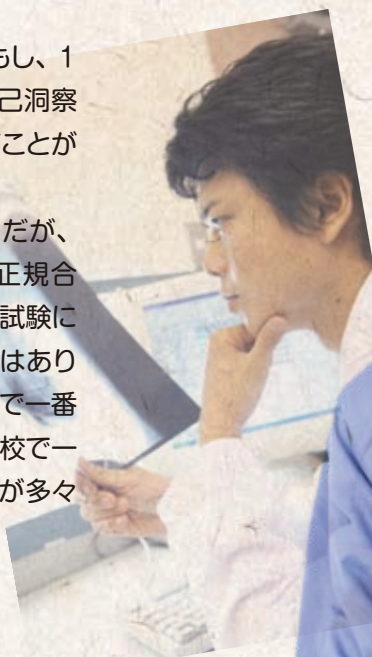
1月2日(土)

実戦模試を受験

1月3日(日)・4日(月)

答案返却と解答解説＋重要問題講義

以上の2つのステップで実施します。



実戦模試は以下の傾向に沿って作成される。

日大の英語傾向

問題数に関しては、大問数は、2007年度を例外として、6題で一定している。しかし、小問数に関しては変動が激しい。たとえば、2007～2008年度は続けて問題数が減ったが、2009年度は増加した。出題順序は、比較的安定している。しかし、昨年は、英作文の問題が最後の第6問で出題された。この分野は中盤(第4問～第5問)で出題されることが多いが、年によっては大きな変動がある。例えば、2004年では、第1問で出題された。また、読解問題は、この数年最初と最後に振り分けられて出題されている。一般的に、最初の問題は英問和答型、最後の問題は英問英答型が置かれている。

日大の数学傾向

試験時間は、97年まで90分で、98年以降は75分となっている。出題数は4題だが、94年～96年は①が小問集合で、②、③、④が大問、97年～03年は4題とも大問の出題で、すべて記述式であった。04年は再び①が5問の小問集合(単答式)、②、③、④が大問となり、さらに④が一部空欄補充形式の出題となった。05、06、07、08年は小問集合が消え、4題とも大問で、すべて記述式となった。09年は5年振りに①が8問の小問集合(結果のみ記入)、②、③、④は大問の記述式であった。この様に日大の出題形式は、出題数は4題だが、小問集合が含まれる年度と4題とも記述式の大問の年度が繰り返されている。

日大の化学傾向

出題形式は、正誤問題、構造式・分子式・示性式、反応式(有機・無機)を書かせる問題、字数制限のある論述問題などが見られる。問題の難易度はそれほど高くはなく、基本を重視した良問と言える。また、入試問題として典型的な問題が多いこと、他大学の医学部よりも無機分野からの出題が多いことが特徴である。09年度は、大問5題で、08年度に比べ、解きやすくなっていった。易化したということではなく、定番問題、過去問の類題が多く見られた。第1問の小問集合は広範囲から出題され、正文誤文選択問題となっていた。解答が1つとは限らないため、正確な知識が必要となる。第2問は、結晶の析出量計算が10年ぶりに出題された。第3問は、無機分野から硝酸に関する出題となった。アンモニアを原料として生成する硝酸の量を算出させる問題が出題された。第4問は、これまでに数多く出題されている電気分解で、空所補充問題、イオン反応式、ファラデーの法則を用いた計算となっていた。この単元は、小問、大問問わずよく出題される傾向にある。第5問は、06年に出版された問題の類題となっていた、分子式の決定、反応式などの記述が多い。

★2010年度日本大学医学部入試 解答形式変更措置★

日大医学部では2010年度入試(2月8日実施予定)より、理科(物理、化学、生物)の解答形式をマーク式とすることが決定、発表された。

ただ、解答がマーク式になるだけで、計算問題でも結果の数値をマークするのか、答えの数値を選び、その番号をマークするのかは、公表されていない。もともと正誤、知識問題も多かった医大である。この実戦模試の予想問題は、内容的に必要な不可欠なものだと自負している。合格のために、是非お役立て頂きたい。

日大の生物傾向

以前は論述や実験考察問題が多く、国公立に近いボリュームと難度であったが、ここ数年は明らかに傾向が変わり、他の私立医大の平均的な問題構成に近づき、易化している。一問一答形式の問題も増えてきた。そしてついに、2010年の入試がマーク式に変更される。意外にやりにくい短文の論述問題が消滅することは受験生にとって朗報であろう。マーク式という理由で倍率が上がるかもしれないが、そんな理由で日大受験を決める受験生は、たいしたことはないで気にする必要はない。受験勉強には王道があり、マーク対策に専念などは週の骨頂である。とはいえ直前は日大マーク対策が必要であろう。マーク式初年度の2010に関しては予想が困難ではあるが、結局は過去問を探るほかない。出題の形式が変わっても、大学が求めているもの変わらないのだから。

日大の物理傾向

試験時間は理科2科目で92年度までが140分、93～97年度が150分、98年度～は120分となった。時間内に解けそうな問題量ではある。98年度までは同じ内容問題のオンパレードで、特に単振動やシリンダー内の気体などは、ほぼ毎年出されてきたが、99年度からは出題範囲が広がって、新しい内容の問題が出題されている。特に典型パターンの単振動の問題が出題されなくなった。難易度は一見すると7～8割くらいはとれそうなレベルに見えるが、しっかりと考えなければ解けない問題も多く含まれていて、それが解けるかどうか合否の分かれ目となる。





日本大学医学部入試 実戦模試 スケジュール

1月2日(土)	実戦模試	10:00~12:00(120分) 理科 休憩50分 12:50~14:05(75分) 英語 休憩25分 14:30~15:55(75分) 数学
1月3日(日)	答案返却と解答解説 重要問題詳解	9:30~12:40 生物/物理 13:30~16:40 英語
1月4日(月)	答案返却と解答解説 重要問題詳解	9:30~12:40 数学 13:30~16:40 化学



申込要項

1. 下記申込書に必要事項を記入して、提出してください(郵送・Faxでも結構です)。定員になり次第締め切ります。
2. 申込書提出後学費請求書を郵送いたします。
3. 受講料金 31,500円(税込)
4. 受講料金を下記の口座にお振込ください。

三井住友銀行 渋谷駅前支店
普通預金口座 口座番号:2740761 口座名:カ) ウイングダム

5. お振込みいただきました受講料金は理由の如何に問わず、返金できませんので、ご了承ください。

日本大学医学部入試 実戦模試 受講申込書

氏名				男・女
住所	〒			
在籍・ 出身高校			卒業年度 (卒業生のみ)	
連絡先 Tel			選択科目いずれかに○ 化学・生物・物理	

郵送・FAX・TEL等でお申込ください。

TEL 03-5469-8578
FAX 03-5469-8587